

「制度についての勉強会」を開催しました



7月27日(土) 就業支援部で内部研修を行いました。テーマは、「制度を知る」です。就業支援部では、障害福祉サービスの就労移行支援事業、就労継続支援事業B型、相談支援事業、また障害福祉サービスではありませんが、加古川障害者就業・生活支援センター各事業を実施しています。

今年度は障害福祉サービス等報酬改定の年で、基本報酬や加算、減算など大きな制度変更がありました。研修では、制度の基本や変更点など難しい内容が中心でしたが、自分が所属している事業の制度や変更点、また同じ就業支援部内の事業の制度や現状を知るとい

う研修目的は達成できたと思っております。研修内で各事業の目標も掲げられたため、あとは具体的に一つずつ取り組んでいこうと一致団結しモチベーションが上がった次第です。

今回に限らず、継続的に研修を実施し、全職員意識を共にして事業の目的や目標を達成したいと切に願っています。

勉強会に参加して

就業支援部 石田裕美

制度のことは難しく、正直避けてきた部分です。目の前の業務をこなすために必要だという認識も持っていませんでした。しかし、今回色々知り、学び、気付きました。制度に関する知識がないと日々していることが無駄になったり、反対に必要な事が抜けてしまいうことがあります。制度は変わっていくものであるため、一度理解しても変更が生じてしまいます。日々アンテナを張り、目の前の利用者さんにとって必要な支援が抜けなく行えるように意識して業務にあたっていく必要性を改めて感じた研修でした。

就業支援部 玉城智

今回、各事業についての制度の

研修を受けた。これまでの研修は受けてきましたが、就労移行支援事業の就職者数が報酬単価に直結しており、計画的に会社へ挑戦し、就職、定着へと繋げていく必要があることを改めて実感しました。一度の実習で適性に合う職場を見つけることは簡単ではありません。限られた利用期間の中で、複数回の職場体験を通して適職を見つけるためには、1年目からどんどん挑戦することが必要だと思います。

その他、他事業ですが、相談支援事業や就業・生活支援センターの取り組みについて、今まで何となくの理解でしたが、今回、具体的に知ることができたため、今後の自分の働きに活かしていきます。

就業支援部 吉原理智

今回の研修を通して、障害福祉サービスや障害者就業・生活支援センター事業について改めて学び直すことができました。特に今年は報酬改定の年に当たり、福祉を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。加古川はぐるま福祉会も時代の流れに合わせて柔軟に変化しながら、また、連綿と受け継がれてきた法人の良いところを守りながら、利用者の皆さんの生活がより良くなるよう、日々支援に努めていきたいと思っています。

「まうことが多いとともに、他人同士に対しても相対評価をしてしまい、不快な思いをさせてしまうことがあるのだから」と反省することができました。「その人はその人の良さや悩みがある」という視点を持つことは、自分の気持ちを軽くするだけでなく今後の支援においても、より利用者さんの立場で物事を考えることに繋がるのでは、と感じました。

また、「受け入れる」と「受け止める」ことは違う、というの、なるほど...と勉強になりました。相手の悩みやマイナスイメージに対しては、「受け入れて」しまいがちでしたが、今後は「受け止め」られるように意識したいです。自分の感情を押し殺して相手に合わせるのではなく、「私は違うけれどあなたはそうなんだね」と言う勇氣(相手に合わせない勇氣)を持つことも大切なのだなと思いました。

講義の中で先生は、誰かを否定することはなく「間違いはない」「面白い結果」という言い回しをされていることが多く、とても聞きやすく自分もこうやって相手に話せばいいと思いました。人の話を聴く、ということに関してもここまで深く考える機会がなかったのもとても貴重かつ有意義な講義でした。

自分の心を大切にできる人は他人の心も大切にできる人なのかも知れません。自分もそうなるように、今回の講義を参考にしていきたいです。

「自己の振り返りと職場づくり」

講師：阿江善春先生
(神戸女子大学客員講師)



6月に生活支援部では神戸女子大学客員講師の阿江善春先生をお招きして「よくいわれる心身相関」と「対人援助と自己の理解」をテーマに研修会を開催いたしました。

昨今の心の問題、人間関係の在り方について、科学的な立場から研究が行われるようになってきましたが、それは複雑に見える人間の心や行動の中に、一般的な法則を見出し、こうとすると、私たちに、それぞれの個性に即した性格の型があり、それは日常のいろいろな出来事に対する反応を通して知ることが出来ます。自分への気づきが深まれば、それに基づいて、自分の性格的なアンバランスを現実世界に即した形に修正、改善することが可能になります。自分を鏡にうつすような気持ちで、自己分析していきましょう。

阿江先生の素敵な人柄により、終始和やかな雰囲気の中、専門的な要素が高い分野は丁寧に説明していただけたことで学びが深まり、有意義な時間を過ごすことができました。阿江先生、本当にありがとうございました。またご縁があればお願いいたします。

研修会に参加して

生活支援部 山下美奈子

今回の研修はとても興味深く勉強になりました。チェックリストで自分が福祉関係で多い典型的なタイプと分かり少し笑ってしまいました。人の話を聴くということについて、受け入れ(共感)ではなく、受け止める(共感的理解)ということを知

り、私は共感していたことに気付きました。また先人観で物事を判断しない。解釈は良ければ、解説はダメ、こうだと決めつけて言わないように気を付けていきたいです。

人間関係は難しいけれど相手を変えることは無理なので関係性を変えていくということを知り、少しずつそうしていけたらと思いました。また、健康で過ごすためにも心と身体と暮らしが大事だということを知りました。

生活支援部 新居千佳

今回、阿江先生の研修を受けて自分自身の内面と向き合い、知るきっかけになり、また専門的な知識を知れて、とても有意義な時間となりました。

人の心を5つに分類し、その5つの自我状態が放出する心的エネルギーの高さをグラフにするエゴグラムを初めて知れて、こんなのがあるのだと勉強になり、また自分の答えが阿江先生のおっしゃる言葉に当てはまったので驚きました。

チェックリストのお話で阿江先生がおっしゃった「悪は受け入れない、受け止める」と言う言葉はとても衝撃的で、今でも自分自身の中にあります。正直そのお話を聴いたとき、今まで自分は家族、友達、先輩、上司など、どんな方に対しても穏便に平和で争いたくないため、嫌だなと感じることやルールを破る行為などを目の当たりにしても、無理やりなんでもないような振る舞いをし「相手の悪を受け入れている」ことに気付かされました。同時にこれからは「相手の悪は受け止める」側の人間になろうと強く思い、実践していきます。

阿江先生のおっしゃったミラーリング効果も自然に感じ、行えるようにもなりたいたいと思いました。相手を感じるように自分も感じる、それ



ができれば利用者さんには的確で思いやりのある支援ができ、職場では働きやすい環境になるのではないかと感じました。相手が変えるのは難しい、ただ関係性は変えていけるまさにその通りだなと思います。

生活支援部 渡邊知美

「相対評価(人と人を比べる)」ではなく絶対評価(個人を見る)」をする」という言葉は特に印象に残っています。自分も自分に相対評価をしてしまい(あの人は凄いの、自分は全然駄目だ...)落ち込んでしま

(3頁4段以降)